
短編企画「しずくとつむぐ」

羽海野涉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

短編企画「しずくとつむぐ」

【Nコード】

N9071T

【作者名】

羽海野涉

【あらすじ】

そうじたかひろさんの短編企画「しずくとつむぐ」参加作品です。「高校二年生のある梅雨の日。放課後、図書室の日本文学の棚前に呼び出された僕は名前も知らない女の子から告白された」というシチュエーションの短編です。

今日から梅雨入りです。そう今朝のお天気ニュースは言った。そして今、雨が降っている。そりゃ梅雨なんだから仕方が無い。でもいつも通り過ぎすだけ。他にやることは無いのだから。僕はいつも通りの行動をして現在帰路についている。青色の傘を持って高校を出たすぐの路地を歩いていてるところだ。だがそれも束の間、携帯が鳴った。アドレスは誰か特定できないものだし（ただ僕の記憶力が悪いだけかもしれないけど）、何故そんなアドレスからメールが来るのかも分からない。だがしかし。そのメールの文面に書かれているのは「図書室の日本文学棚の前で放課後に待っています」という簡潔な文章。別に行かなくてもいい。けれど僕は行くことにした。何故って？梅雨の憂鬱さが少しでも消えるならいいじゃないか。

僕の高校の図書室は地域の中でも最大級に広い。どれ位と表すなら普通の二十五メートルプールが三階あるようなものだ。日本文学の棚は三階にある。僕は階段を上がりつきあたりにある日本文学の棚の前を見る。そこにいるのは女子だ。僕が女子とまともに会話した最後の日思い返してみよう。春夏秋冬夏春。そうか去年の春だ。合格おめでとうとクラスの打ち上げを行ったときだ。それ以来高校に入ってからというものまともに女子と会話していなかった。なのに何故女子に呼び出されるのか。恨みをかけたか？いや、極力恨みをかわないような言葉と喋り方には気をつけている。まあ何にしてもだ。話を聞かなければ始まらない。僕は彼女の所へと足を進めた。

「で、何で僕を呼んだんだい？」「え、と、間島先輩ですよね？」

「ああ、いかにも。間島紡だ。君の名前は？」「真冬雫と申します……」

「じゃあ雫、話を戻そう。何で僕を呼んだんだい」「ん、えつと」「ハッキリ言ってくれ」僕がこの言葉を口にしたら彼女は覚悟を決めたように言った。

「好きです。私先輩のことが好きです」

その赤いリボンをつけた長い髪を靡かせ、雨の音より大きく、大きな瞳をこつちに向けてそう言った。

「付き合ってください」

そう言われると今度は僕が曖昧に返事をする番だ。「え、と。ああ」「今まで見てきて本当に好きになりました。お願いします」もうその瞳を向けられたら何とも言えないだろう。僕は返事をした。

「分かった。君のクラスは？」「一年三組です」そう答えて彼女は言った。「一緒に帰ってくださいませんか？」と。僕は了承して昇降口へと向かった。しかし雫が来た頃には雨は上がっていた。これじゃあ相合傘は無理ですね、と彼女は頬を赤らめて恥ずかしそうにそう呟いた。

しかしだ。翌日一年三組に行ってみると彼女はいないものになっていた。存在が消えた。何故だ。僕は不思議に思い、昨日の図書室の日本文学の棚の前に行く。昨日告白された場所だ。そこにはもちろん誰もいなかった。しかし床には雫が落ちていた。青い雫。そしてその雫の隣には。「しずくとつむぐ」真冬雫と書かれた本が一冊置いてあった。

(後書き)

今回の短編企画に参加させていただきました。どうもありがとうございます。今回の参加者様の中では一番拙く読みづらい文章かと思いますが、よろしく願います。今回のヒロインはあのアニメの子、主人公はあのラノベのあの人と思いながら書かせていただきました。後日談的なのはあって正解なのは僕にも分かりませんが、これが真実だというだけです。ネタが重複していたらすみません。進歩します。ではまた次に会えたら幸いです。では。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9071t/>

短編企画「しずくとつむぐ」

2011年7月8日06時38分発行